

ネット販売で 北リアス支援

全国の経営者有志

被災企業の商品発信

ボランティアに寄付も

「のだ塩あめ」や「山のきぶどう」など野田村や久慈市の特産品が、三陸北リアスギフトセットとしてインターネット販売されている。首都圏の中小企業の経営者らボランティアグループの企画で、商品価格に上乗せした500円を、野田村などで活動するボランティア団体に寄付する。被災地企業の支援とボランティアの活動充実の「一挙両得」を狙う。

企画したのは、チームともだち(東京都渋谷区、登内義也代表)もともと外国人と日本人が友達となるような取り組みをしてきたが、震災後は被災地のための活動に力を入れている。

メンバーは約100人で、日用雑貨品の製造卸売業を営む登内代表(44)ら中小企業経営者が中心。メンバーに久慈市出身者がいた縁で、登内代表らが5月、ボランティア活動で野田村に訪れた。

その際、東京で久慈地域の特産品に触れ合う機会が少ないことを知り、ネット販売を思

佐々木茂社長と打ち合わせする(左から)本
田正博さん、登内義也
さん、本田紀生さん



を考えた。

ギフトセットは洋野町、久慈市、野田村、普代村の特産品をそろえた。塩蔵ワカメやとろろ昆布、海藻スープなどの詰め合わせで3150円、4200円、5250円の3種類。6月中旬から予約を受

け付けたところ、約270セットの注文があり、7月から発送を始めた。

6月下旬に打ち合わせのため久慈市を訪れた本田正博さん(38)秋田市は「同じ東北人として何か協力できないかと思っていた」、本田紀生さん(54)福島市は「久慈地域をモデル地区として、同じような試みを福島にも広げたい」と活動の意義を強調。山のきぶどうの製造

元・佐幸本店の佐々木茂社長(63)は「地元メーカーとして、ボランティアを応援しながら一緒に前に進みたい」と支援に感謝し、登内代表は「これから頑張っていく」としている。経営者とぜひ協力したい」と意気込む。

寄付金は、チームともだちが企画する「野田村こども新聞社」にも利用される。ギフトセットの注文はホームページ「三陸北リアス産直市場」で